

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112BK06	観光文化資源論	国家試験合格を目指して	手塚 郁子	1年次前期	2
科目区分	専門	キーワード	観光文化・観光地理・名所旧跡・民俗伝統芸能・郷土特産物		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目	特になし				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	全国の観光名所について知るだけではなく、それぞれの地域の自然的特性やその背景にある歴史、そこから生み出された文化を全般的に学びます。それらによって、各地のさまざまな人々との相互理解やコミュニケーション能力の一助になることを目的とします。				
到達目標	国内旅行業務取扱管理者試験の合格を目標とします。したがって出題範囲となる文化資源を覚えなければなりません。当該試験に合格するためには、『国内旅行実務』の学習が特に重要な項目として位置づけられています。中でも観光地の内容に関することは、幅広く多岐にわたって出題されるために、要領よく早くから覚えらえるように対策しておくことが必要です。				
講義内容	旅行業務取扱管理者試験の科目「旅行実務・旅行業務の取扱いに関する実務処理」に出題される観光資源について、47都道府県に亘り幅広く学習します。この科目は出題範囲が非常に幅広く、数多くの観光に関するテーマについてさまざまな角度からその内容を問われます。一般的な地勢はもちろん自然系の山岳、高原、川、滝、溪谷、島、海岸、半島、岬、温泉、洞窟に加え、寺社仏閣、祭事や民俗芸能等の開催地と開催月、城、古墳・遺跡、歴史の舞台、郷土料理や特産品・伝統工芸品、美術館や博物館など、試験対策として必要な内容を説明していきます。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	授業概要	授業の内容と進め方・学習方法・評価等の説明		
	第2講	北海道	北海道の観光地とその自然・文化資源		
	第3講	北東北地方	青森県・秋田県・岩手県・宮城県		
	第4講	南東北～関東地方	山形県・福島県・群馬県・栃木県		
	第5講	関東地方	茨城県・千葉県・埼玉県・東京都・神奈川県		
	第6講	中部地方Ⅰ（北陸・越後）	新潟県・富山県・石川県・福井県		
	第7講	中部地方Ⅱ（甲信・飛騨美濃）	岐阜県・長野県・山梨県		
	第8講	中部～近畿地方（東海・伊勢志摩）	静岡県・愛知県・三重県		
	第9講	近畿地方Ⅰ	和歌山県・奈良県・滋賀県		
	第10講	近畿地方Ⅱ	京都府・大阪府・兵庫県		
	第11講	中国地方	鳥取県・島根県・山口県・岡山県・広島県		
	第12講	四国地方	徳島県・香川県・愛媛県・高知県		
	第13講	北九州地方	福岡県・佐賀県・長崎県		
	第14講	南九州地方	熊本県・大分県・宮崎県		
	第15講	南九州～沖縄	鹿児島県・沖縄県		
指導方法	47都道府県の出題範囲を全て説明していきますので、講義が中心になります。膨大な量を限られた時間内で終了させる必要があるため、1回の授業で3～4県進みます。ペースが速いと感じられると思いますが、頑張ってください。要領よく重要なポイントをまとめていくように指導します。				
事前学習	各回に予定されている地域・都市などの位置関係等を地図帳で理解しておくことです。毎日少しずつ（例15分×6日間のように合計1時間30分程度）継続することが効果的です。				
事後学習	復習は必ず必要で、練習問題に取り組み、誤った箇所についても確実に覚えます。地理が苦手な人は、白地図の記入をしてください。毎日少しずつ合計で、最低でも1時間30分程度は必要です。				
成績評価方法	「小テスト第3講～第14講（全12回）各5点×12回」（60%） 小テスト実施日に欠席した場合、小テストの追再試験はありません。「本試験（筆記試験）」（40%）				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	毎授業時に実施する小テストを返却します。				
テキスト	『旅に出たくなる地図 日本』（株）帝国書院 『観光地理・観光文化資源』オリジナルテキスト				
参考文献					
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	国家試験の受験希望者は藤野先生の「観光地理」も履修することをおすすめします。				